

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100235		
法人名	社会福祉法人すずらん会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所わかやま苑		
所在地	和歌山市屋形町1丁目39番地の2		
自己評価作成日	平成23年10月13日	評価結果市町村受理日	平成23年12月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3090100235&SCD=320&PCD=30
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会		
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F		
訪問調査日	平成23年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当事業所は利用者の人格を尊重して常に利用者の立場に立ち、その人がその人らしく生きられるようにサービスの提供に努めています。書道・コーラス・絵画などの芸術活動もできる限り行っています。イベントや行事では家族様や地域の方にも参加を呼びかけて交流を持てるよう取り組んでいます。また、利用者の健康管理面においては、協力病院と密に連絡を取り、診療時間外においても診療を受けられるように連携を取り、利用者の体調管理を行っています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>市の中心部に位置する7階建ての地域密着型複合施設の3階がグループホームとなっている。同建物内に、小規模多機能型居宅介護、特別養護老人ホームが併設され、7階の多目的ホールは有事には地域の為に開放し、地域の防災の拠点となっている。道を隔てた協力医療機関である系列法人の病院と連携して医療面での安心が図られている。受診やリハビリに通う道沿いのプランターには季節の野菜や花が栽培されており、今年の夏はオクラが沢山収穫できた。法人施設では多彩なクラブ活動が行われており、他のサービスの利用者との交流の場ともなっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安全で安心して、その人らしい生活を送れるようにとの理念を職員一同心がけて支援を行っている。	理念「みんなのおうち」を室内に貼っている。理念に基づいた暮らしの実践に向けて会議等で話し合い入居者に接している。	理念「みんなのおうち」の意義を踏まえて、グループホームでの暮らしについて職員間で共通認識を持ち、入居者や家族にも理念を伝えていくことが望ましい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事にも地域の方にも参加して頂いています。近所への散歩や買い物に出かけ、地域の方と交流している。	グループホームとしての地域との接点は少ないが、地域との交流は法人施設全体で行われている。7階多目的ホールで複合施設全体の運動会や敬老会、各種催し等が行われており、家族や地域住民の参加もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者の相談業務を行ったり、共に催し物を楽しんだりしている。イベントの際には地域の方や、利用者の家族・友人等にも案内状を送ったり、お誘いしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在2ヶ月に一度は行えていないが、開催時には、外部の方の意見を聞き、サービス向上に活かされるように取り組んでいる。	建物内の法人3サービス合同で行っている。入居者代表、家族代表も参加して家族の要望や感想、職員の対応やサービスについて話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所各担当者、高齢福祉課、介護保険課等に相談して、指導を受け取り組んでいる。	できるだけ市役所に出向いて担当者に相談し、指導を受けるようにしている。市役所職員の研修も受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は実施していない。身体拘束廃止についての研修を行い、理解を深めながら身体拘束をしない介護を実践している。	研修を実施し身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、エレベーターはロックされている。玄関の施錠はなくエレベーター前のホールには出られるようにしているが、自ら玄関の外へ出ようとする人はほとんどない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修を行い、理解を深めながら、個々の利用者に合わせた介護や、スタッフのストレス軽減のために話し合いながら取り組んでいる。		

【事業所名】認知症対応型共同生活介護事業所わかやま苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者やケアマネージャーは外部研修にて学んでいるが、職員は参加の機会が少なく制度の理解に不十分である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書は書類を見ながら直接説明し、分からない事があれば説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも誰でも意見を提案できるように、意見箱を設置している。 意見・提案があれば直ぐに会議を開催し対応するようにしている。	家族とは訪問時に話し合っている。意見箱の活用はないが、行事の際に意見を聞く機会を持ち、また、直接意見を聞く機会の少ない家族も意見を表せるように、アンケートも実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議や朝礼等での職員からの意見や要望は、毎週行う管理者参加のケアマネ会議で意見を反映させている。	日常的に職員と計画作成者と提案等についてはよく話し合われており、朝礼、月1回のフロア会議で意見が出されている。出された意見は計画作成者を通して管理者に伝え、運営に反映できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ケアマネ会議で勤務状況の報告を行っている。毎月全職員対象に苑内研修も行っている。 業務改善の意見を募るアンケートも定期的に実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月苑内研修を行っている。外部研修も職員に回覧し、希望者には参加してもらっている。 業務の中で一人ひとりのスキルチェックや指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等で同業者との交流を持つ程度である。 環境整備、職員の意見等に関する情報を取り入れ、サービスの質の向上に努めている。		

【事業所名】認知症対応型共同生活介護事業所わかやま苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接では、できる限り本人様と家族様と意見や情報を聞き取れるように努めている。希望や困っていること等ニーズの把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所・電話等の相談により、家族が困っていること、要望等をお聞きして、適切なサービスを家族と共に選んでいる。安心していただける関係づくりに取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族がその時、必要としている支援を考え、当施設のサービスに限らず、他事業所のサービスやインフォーマルサービスも考慮に入れ支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個人に合わせ、過剰介護にならないように自分でできることはして頂き、また、利用者と共にできる家事は共に行っている。趣味活動の時間も共有するようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会にも積極的に来て頂き、共に過ごす時間を持ってもらっている。生活暦をお聞きしたり、協力を仰ぎながら支援している。日常の変化等、連絡を密にするよう取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の方にも気軽に面会に来ていただけるように努めている。家族との外出支援も行っている。	2階の小規模多機能型サービスの利用を経て入居した人には、2階を訪問して馴染みの友人に会えるよう支援している。家族にも働きかけて、法事・墓参り・通院・美容院・外食等ができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わりあい、支えあえるような支援に努めている。各居室やリビング・和室等活用しながら団らんに努めている。クラブ活動や行事等共に楽しめるよう支援している。		

【事業所名】認知症対応型共同生活介護事業所わかやま苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、家族からの相談を受け付けたり、行事に参加を呼びかけたり、関係の継続を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から、個々の思いや意向の把握に努めている。 全職員からの聞き取りも行い本人の思いを汲み取れるよう努めている。	要求をよく口に出す入居者もいて、入居者の思いを把握する様に努めているが、入居者の思いや意向に沿った主体的な生活の実現に向けて、入居者自身の自己実現を目指す意欲を見出すには至っていない。	入居者一人ひとりが自分で決めて、自分で生活している感を持てる様に、それぞれの思いを聞き、生きがいや楽しみにつながるケアに反映できる事を期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、入所前のケアマネ等に生活歴や趣味・嗜好を聞き取るよう努めている。 これまでの生活の延長となれるよう取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック、食事・水分量摂取量、排泄パターンの把握を行っている。日々の状態に合わせて一日の過ごし方に配慮している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人らしい暮らしができるように本人と家族を交えて話し合い情報を収集している。 日々の生活の中で職員が気づいたことを全職員で共有し、看護師の意見も反映させ介護計画を作成している。	家族、本人の希望をもとに職員の意見を取り入れて作成している。計画の評価は毎月行い、状況変化がなくても3カ月ごとに見直しているが、個別性、具体性が薄く、職員間で実施内容を共有しにくいところもある。	センター方式等、使いやすいアセスメントシートを活用して入居者一人ひとりの好みや傾向をつかみ、入居者の課題に即した具体性、個別性のある計画の作成が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活状態や特記事項を記入し、職員間で共有している。職員間で意見交換を行い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、そのときどきのニーズに応えられるように、協力病院との連携や、その他サービスについても検討し対応できるよう努めている。		

【事業所名】認知症対応型共同生活介護事業所わかやま苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方々と繋がりがあ り、慰問に来て頂いたり、協力して頂いたり している。 散歩へ出かけたり豊かな暮らしを楽しめるよ う取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得 が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きな がら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望を優先して、かかりつけ 医の診察や適切な医療が受けられるように 他医療機関の紹介や協力病院受診等、支 援している。	入居者・家族の希望にそった医師の受診を受 けられるよう支援している。協力病院以外の 医療機関でも、家族で行えない場合は受診を 支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気 づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝え て相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を 受けられるように支援している	日常の健康管理や薬について等の相談を 行っている。体調異常時や気になることがあ れば随時報告・相談を行い、適切に診察が 受けられるように支援している。受診の付き 添いも行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、 又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係 者との情報交換や相談に努めている。あるいは、 そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを 行っている。	入退院時のカンファレンスを行い、病院関係 者との連携を密に取っている。情報提供書も 作成している。入院時には様子伺いも行っ ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い 段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所 でできることを十分に説明しながら方針を共有し、 地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでい る	重度化した場合には、家族等と話し合いを 行い、出来る限り希望に添えるように取り組 んでいる。 協力病院や法人内の施設の利用等、状態 に合わせた支援ができるように努めている。	重度化した場合は、入居者の様子を見ながら その都度家族と話し合いをしている。常に入 居者や家族の希望に沿ったケアを心がけて ホーム内でできる支援をしている。。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員 は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行 い、実践力を身に付けている	外部研修への参加や苑内研修を行い、疾病 の理解を深めている。緊急時にはマニヤ ールに沿って対応するようにしている。柔軟な 対応ができるよう職員に指導を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を全職員が身につけると ともに、地域との協力体制を築いている	定期的に施設内合同で職員・利用者参加で 避難訓練を実施している。避難経路の確認 や消火器の位置は全職員が把握している。	法人全体で取り組み、7階フロアは地域の災 害の拠点にもなっている。トイレの水の確保、 備蓄は3日分用意している。避難訓練では、 歩けない人が転倒しないように誘導の際注意 している。	

【事業所名】認知症対応型共同生活介護事業所わかやま苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格等を把握し、人格を尊重した支援を心がけている。入浴や排泄等は同姓介助に努め、羞恥心に配慮したケアに努めている。	名前は苗字で呼ぶ事を原則として、プライドを傷つけないように配慮している。入浴や排泄時には羞恥心に配慮した対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	クラブ活動への参加や、入浴等本人の希望に添えるように取り組んでいる。本人の思いを聞き取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、本人の体調や気分に合わせて、個別に対応できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に着る服を選んだり、髪を整えたりしている。散髪は月に1度理容店の方に来ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る限り本人の嗜好に合った食事を提供するように努めている。食事の調理は厨房で行っており、フロアでは盛り付け・配膳を行っている。おやつ作り等のイベントではみんなで行っている。	殆どの入居者がテーブルで厨房から運んだ食事が配膳されるのを待っている。一緒に同じ食事を取る職員は少ない。おやつ作りの際にはみんなが平等に少しずつ参加できるようにボールを順番に回すなどしている。	部分的にでもホーム内で調理を行い、音や臭いで食事ができるのを体感できるような工夫がほしい。入居者が自然な形で役割を持って関わり、職員と食事を楽しむ支援が望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事・水分摂取量を記録・把握を行っている。管理栄養士により必要なカロリーを把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で行える方には自分で行ってもらい、介助が必要な方には職員が毎食後に行っている。また、週2回歯科衛生士による口腔ケアを行っている。		

【事業所名】認知症対応型共同生活介護事業所わかやま苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入しており、排泄パターンの把握に努めている。失禁を防げるように、その方に合ったトイレ誘導・声掛けを行っている。排泄の自立・清潔保持に努めている。	トイレは2部屋に一つ設置されている。職員は、排泄チェック表をみて一人ひとりのタイミングに合わせてさりげなく援助している。リハビリパンツを利用している、失敗無く自立できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便周期を把握し、食事や水分の摂取に気をつけている。便秘傾向の方は医師・看護師と相談しながら適切に便薬を使用している。運動やマッサージ等の支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には週3回の入浴を予定しているが、本人の体調や希望に合わせて実施している。	日中の好きな時間に入浴できる。入りたがらない入居者には相性の良い職員がタイミングを見て対応し、トイレから風呂場へさりげなく誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動を促し、一人ひとり安心して休息できるよう生活リズムを整えるように努めている。居室の温度や明るさも快適に過ごしてもらえるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が服薬一覧表を作成して、服薬時には職員が確認を行っている。薬の用法や副作用等職員も理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や職歴、趣味等の得意分野を發揮してもらえるように支援している。クラブ活動や散歩等、気分転換に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じてもらえるよう散歩やドライブに出かけたりしている。買い物や外食の支援も行っている。	職員の人員体制を工夫して、3人ずつ順番に外出の機会をつくっているが、その日外出できない人からの不満の声がある。道を隔てた系列病院に定期受診やリハビリに通う入居者が多く、外へ出る機会となっている。外食には希望者全員で出かけている。	テーブルの決まった席での時間が多いので、外出中の人の空席が目立つことも不満の要因の一つと思われる。ライフスタイルを見直し、その日外出できない人も思い思いの場所で過ごせる支援が望まれる。

【事業所名】認知症対応型共同生活介護事業所わかやま苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方が少なく、少額のみ所持している方がいる程度である。所持しているお金を使うことは無い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話できる方には、職員が繋げて連絡を取れるように支援している。 手紙やはがきは自分で書いてもらったり介助したりして、ポストへの投函等支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は空調や明るさ等不快にならないよう配慮を行っている。 花や手芸作品などを飾り、季節感を感じられるような空間作りに努めている。	入居者は昼間は食堂の椅子で過ごすことが多く、畳のフリースペースもあるが、あまり活用されていない。水槽には金魚が泳ぎ、廊下にはマッサージチェアがあり、キーボードも置いてあるが、住まいとしての落ち着きと家庭的な雰囲気あまり感じられない。	入居者が自由に過ごせる場としてフリースペースを活用できる工夫が望まれる。入居者の住まいであることを考え、理念の「みんなのおうち」感が出るような暖かく、寛げる空間作りに期待する。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや和室、エレベーターホール等思い思いに過ごしてもらえるようにしている。 食卓以外に自由に座ってもらえる居場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に協力してもらい、馴染みの家具や生活用品等持ってきてもらいその人らしい空間作りに努めている。	入居者の好みに合った品物やタンスが置かれている。壁には写真等が貼ってあり、みんなで作った手芸を飾っている入居者もいる。間取り等も入居者の居心地の良い空間になる様工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の家具の配置や、ベッド周り等の日常生活品の置き方等、その人にとって安全で使いやすいように工夫している。		